

## 平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

## 協議会議事要点録

協議会議事要点録				
会議名	平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会			
日時	平成28年3月18日（金）13時15分～15時			
場所	江田島市役所2階会議室			
傍聴者	5名			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教授	おかやま まさと 岡山 正人	○
	江田島バス株式会社	代表取締役	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	すぎい くみお 杉井 公美雄	○
	広島県旅客船協会	会長	にった いちろう 仁田 一郎	○
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	たにぐち みのる 谷口 実	○
	広島県タクシー協会江能支部	支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会長	はまなか しげみ 濱中 繁美	○
	江田島市老人クラブ連合会	会長	ふるもと さねき 古本 眞機	○
	江田島市社会福祉協議会	会長	なかむら ひろまさ 中村 博政	○
	江田島市女性会連合会	会長	しもだ とよこ 下田 豊子	○
	江田島市観光協会	会長	いとう ふみお 伊藤 富美雄	×
	中国運輸局海事振興部旅客課	課長	ひらお よしひろ 平尾 嘉宏	代理出席 竹谷 浩
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	ひらが てつじ 平賀 哲二	代理出席 櫻井 康彬
	広島県地域政策局地域力創造課	課長	きむら ひろし 木村 洋	代理出席 藤田 順子
	江田島警察署	地域交通課長	やまぐち きよふみ 山口 清文	○
	江田島市	副市長	どて さんせい 土手 三生	○
江田島市	企画部長	しまづ しんじ 島津 慎二	○	
江田島市	土木建築部長	きむら なりひろ 木村 成弘	○	

1 開 会	
事務局	開会宣言
2 新規就任委員紹介	
山口委員	自己紹介
3 会長あいさつ	
会 長	土手会長あいさつ
4 議 題	
(1) 協議事項 江田島市地域公共交通網形成計画（案）について	
① パブリックコメントの結果について（資料1）	
② 江田島市地域公共交通網形成計画（案）（資料2）	
事務局	－資料1及び資料2により説明－
議 長	<p>はい、どうもありがとうございました。会議次第にありますように、「① パブリックコメントの結果について」と「② 江田島市地域公共交通網形成計画（案）」の説明がありました。この計画の方が大切なわけですが、この取りまとめについて、ご意見賜りたいというふうに思っております。パブリックコメントにつきましても、ご意見あるいはご質問等がございましたら、遠慮なく申し上げていただきたいと思いますと思っております。最終的には、パブリックコメントを踏まえて、皆さん方からの了承を得た上で、江田島市地域公共交通網形成計画に取りまとめたいと考えております。</p> <p>それではまず、資料の前後は構いませんので、二つの協議事項につきまして、ご意見賜りたいと思っております。この協議会、公開になっておりますので、発言者にはマイクを回したいと思っております。どうぞ挙手で合図をしていただければと思います。いかがでございましょうか。</p> <p>事務局からの説明のあったパブリックコメントや形成計画の案につきましては、委員の皆様方には、事前に配布してあるわけですが、分かりにくいところもございましたら、遠慮なくご質問いただきたいと思いますと思っております。</p>
委 員	<p>2点ほど、お聞きしたいと思います。資料2の25頁に「公共交通の課題」として書いてあるように、8月から市役所本庁が大柿町大原に移転します。それから大柿の大谷病院が中町に建設されています。そういうことになりますと、人の流れが大きく変わるんじゃないかということで、ちょっと路線バスを考えていただきたいと思いますと思い質問させていただきました。まず現在、大柿高校前から飛渡瀬を回って中町の港に行くルートと、もう一つは大柿高校前から鹿川を経て中町へ行くルートと2つあるわけですが、これを左回り・右回りと循環線にして、船との接続時間も合わせて、また、三高から中町に行くルートもセットしていただきたいと思いますということを要望させていただきます。</p> <p>もう一点は、11頁に「燃料費の高騰に伴う経費の増大」と記載されていますが、パブリックコメントの35番に「燃料費の高騰による収益の悪化」と記載が</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

委員	<p>あるが、現状では石油価格は下落しており、燃料費の高騰に関する記載は抹消してはどうか」という意見が出されている。この意見については、どのように思われているのかをお聞きしたいです。</p>
議長	<p>それでは事務局，よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>はい。2点ご質問いただきました。</p> <p>最初に燃料費の方からお答えしようと思います。資料2の13頁を見ていただくと、燃料単価の推移を記載しております。おっしゃられるとおり、今時点、ここ最近と比べたら価格は下がっていると思うんですが、特に黄緑色の線を見ていただくと分かりやすいと思うんですが、少し長いスパンで見ると、「今がすごく安くなって、昔と同じですよ」と言える状況かということ、そこまでは言えないだろうと考えております。パブリックコメントでは、「燃料単価は下がっている」ということはありますが、昔から見るとどうかということで、このような表現のままとしております。</p> <p>もう一つは循環バスについてです。こちらの具体的な走らせ方というのは、実際に運行している江田島バスさんと、今後、具体的に考えていくこととなります。今回、少し検討したんですが、中町を起点に、ゆめタウン・大柿高校・鹿川を循環にした場合、1周に約45分かかります。このルートをグルグル回った時にどうなるのかということ、船から降りて、中町でバスに乗車したとしても、グルグル回っていくうちに船のダイヤとずれていきます。バスの走る路線延長が長くなればなるほど、船ダイヤと合わすのが難しくなっていきます。オレンジ号も同じような感じになります。こうなると、バスを降りたけど船に間に合わないとか、船を降りてから長時間バスを待つということになります。実際の交通の不満点と云ったら、「接続が悪い」ということが示されていますので、「接続を考えるのが本線かな」と、個人的な思いがしております。そういったことも踏まえ、具体的なバス路線の協議を行なっていきたいと思っています。</p>
委員	<p>要するに何回か巡廻すると、船との接続が非常に難しくなるということで、巡廻ルートは難しいという回答だったと思います。分かりました。色々検討してみてください。</p>
議長	<p>できるだけ住民の方々に便宜を図れるような、そういう巡廻であって欲しいので、「そういう路線では不都合がある」ということであれば、また検討していくということになるかと思えます。分かりました、ありがとうございました。</p> <p>はい。他に何かご意見ございませんでしょうか。</p>
委員	<p>パブリックコメントについてです。人数でいうと19件、コメント数でいくと80件と、私は他の市町の協議会にも参加することが多いんですが、非常にたくさんの方のコメントの件数ですし、コメント数もたくさん載せられていて、市民の皆さんの関心が高いということで、非常に素晴らしいことだと思いました。今回の計画に反映されているものもありますし、ページの途中からは、一括して反映されていません。今回の計画作成のスケジュールに仮に間に合わないとしても、資料の後半で、一括してお答えするような形ではなくて、例えば「3年間の実施計画を立てる予定があるので、必要であれば、今後の具体的な再編な</p>

<p>委員 (つづき)</p>	<p>どを考えながら、検討していきたい」であるとか、せっかくコメントを寄せていただいておりますので、時期が遅くなっても可能なものに関しては、何かの形でお返しをされてはいかがでしょうかというのが一つ目の意見です。</p> <p>次に、少し細かい話をさせていただくんですが、先程、他の委員さんからのコメントにもありました資料2の「燃料価格の推移」のところで、事務局がお答えになった、「長期のスパンで見ると、元の価格に戻ってきていない」ということに納得したんですけども、グラフの書き方の工夫で、例えば縦軸の燃料価格がゼロ円から120円までで表示されているんですが、そこが例えば50円から始まって120円のような形に変えて見せると、「最初のスタートが65.8円で、今は94.1円ですよ」と、価格に戻っていないというのが目で見てはっきり分かっていただけ。今のグラフでは、価格に戻ってきているような印象はあるんですが、戻りきっていないということが、素人というか、資料を見慣れていない方にもすぐ分かるような形に工夫されると、先程の事務局の説明にすごく納得がいくなと思いましたので、ちょっと申し上げたいなと思いました。</p> <p>あとは、今回初めて評価指標の目標値を設定していただいた格好になるんですが、平成32年度の目標値として、例えば36頁の「情報提供資機材の整備件数」というのは、具体的に何か整備されるご予定が今あるのかどうかといったところですか、その上の「負担感軽減策の実施件数」というのは、事業をやればそれが一件となり、例えば割引策を一つ作ったら、それが1件となり、違うものと考えたら2件目ということになるんだと思います。それを成果にするよりは、「事業をした結果、市民アンケートの一つの項目の満足度が向上しました」というような、アウトカムになるような指標がもう少し入ってくることであれば、事業の成果として、非常にいいものになるのではないかと思います。いくつか目標値を設定されていますが、「アンケートの満足度や結果として、こういう良いことがありました」というようなところに持っていけるものがありましたら、ぜひ、そういうものを採用していただければと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。3点ばかり質問が出ました。事務局よろしくお願いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、1点目のパブリックコメントの回答につきましては、もう一度見直しまして、可能なところは整理したいと思います。</p> <p>それから、価格のグラフの作り方も、少し工夫できればと思います。</p> <p>目標値につきましては、事業者であるとか、商業施設であるとか、ヒアリング等々させていただく中で、実施が期待できるものを載せております。ただし、具体的な調整は、まだやってはおりません。全体としては、39頁の「市民満足度アンケートによる満足度の検証及び目標値」にも記載しておりますが、「市民満足度60ポイント以上」を目標に考えております。</p>
<p>議長</p>	<p>分かりました。ありがとうございました。できるだけ、満足度は60ポイント以上になるように努力していただき、改正する点があれば、それは修正していただくということでお願いしたいと思います。委員さんからの意見にもありましたが、他の地域に比べてパブリックコメントに非常に積極的で、実のある意見が多</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

<p>議長 (つづき)</p>	<p>くありますので、さらに検討を加えて、この計画の中に盛り込めるものがあるとすれば、ぜひ、それを考えていただきたいなと思っております。他に何かご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>パブリックコメントの69番についてです。パブリックコメントを最初から読んでみると、細かい部分までしっかり書いているなど感心しておるわけです。しかし、コメントの69番は、「中町発広島行き的高速船が、瀬戸内シーラインになってから騒音がうるさくなっている」ということを書いてあるんですが、「この改善を要します」ということを書いて、「その理由を教えてください」ということになっているんですが、これは分かっていますか。</p>
<p>議長</p>	<p>いかがでございましょうか。もし理由が分かればお願いしたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>専門家がないので、ちょっと分かりにくいと思っておりますが、私は船に乗っていたので。</p>
<p>議長</p>	<p>では、ぜひお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>この航路では、運航者が瀬戸内シーラインに変更になりましたが、同じ馬力の同じ船で航海をしています。だから、騒音が酷くなることはまずないと私は思うんです。騒音が気になる人から見ると、「騒音がうるさくなった」と感じられて、コメントに書かれたのではないのでしょうか。船の使い方によって、急激に回転を上げたりとか、そういうことがあれば多少は違ってきますけどね。同じ船なので、騒音はたぶん変わらない。どのような状況で言われるのかは分かりませんが、ちょっと分からないことが書いてあるなど思ったわけです。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。私もこれを見て、この船に乗ってるので、騒音が急に変化するものかと思ってびっくりしました。はい、分かりました。 他に何かご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>先程他の委員さんから出された意見と大体似ています。実際、社協に来るお年寄りから聞いた話ですが、社協でバスを利用する人は、あまり船との関連を考えていなくて、むしろ病院のことを考えているようです。病院へ行く方の一つの例を挙げますと、その方は小用から出発して、深江の長坂病院さんを利用するので、「バスで行くのが非常に難しい」と言われます。といいますのが、大柿経由あるいは大君経由とあるんですが、深江に行くのが少ないんです。「本数は」と言うと、「大柿に行くんだから、深江の方は大丈夫じゃないか」と思われるかもしれませんが、お年寄りは、「大柿高校の前から深江の長坂医院までは、とても歩けない」ということをよく聞きます。したがって、循環バスは、船と関連させるということはあまり考えていなくて、時間帯によったら、病院に行きたい人が、割と多いのではないかと思うんです。これまでの話を聞いておきますと、循環ルートは大きな円になりますよね。そうじゃなくて、近い円で、時間帯によっては、ほとんど病院の方を回る。それから船と接続できるものは棧橋に入れるとか。呉市の循環バスには非常にたくさんの種類があって、乗ってみても利用者が多いように思う。時間によっては、「病院利用には非常に良いが、船は関係ないよ」という方が、利用者には便利じゃないかなど。私は中央ですが、船に間に合</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>わないと必ずタクシーを使うんですね。タクシーは小用までですと、そんなにべらぼうにお金がかからないから、割とお年寄りも利用して、小用から広島に出る船に乗っている。しかし、長坂医院は遠いから、タクシー代が随分かかりますから、そういう利用者の考えを循環バスに反映させていただければと思います。先程の委員さんの意見にもありましたが、「ぜひ、低料金で行ける循環バスのようなものを考えていただきたい」というのが、社協で老人から伺っている意見でございます。</p>
<p>議長</p>	<p>大変貴重なご意見ありがとうございます。事務局の方いかがでございますか。ただ今のご意見につきましては。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。想像のレベルではありますが、病院巡りで利用されるというニーズは、確かにあるんだろうなとは思っています。計画案の26頁のほうを見ていただきたいのですが、路線バスの要改善点のアンケート結果を記載しております。どのニーズが一番高いかと言うと、「船との接続を改善する」という結果が出ていて、こうした意見を無視できない状況です。その中で、「時間帯によっては、この方がいいんじゃないか」というようなことがあれば、具体化の協議をしていく際に、地域の方とか、この場もそうですし、ご意見等伺いながら中身を考えていきたいと思っております。</p>
<p>議長</p>	<p>はい。ありがとうございます。委員さんから「循環バスでも大きな循環じゃなくて、小回りの利くような循環の方がいいのではないか」というようなご指摘もありました。そうすると、今はあまりありませんが、バスとバスとの乗り継ぎも必要なのかもしれません。今後、検討する余地のある部分ではなかろうかと思われるんですが、いかがでございますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。今回の計画策定に当たりまして、コンサルにも入っていただいております。当然、循環とか色々なものを合わせて検討した結果として、今回の計画案というか、設定になっています。これは現状のバス車両とか、船との関係とか、色々なことを考えた結果です。コンサルの方から、少し補足をしていただけないですか。</p>
<p>受託事業者</p>	<p>はい。循環線の要望の件ですけれども、実は大循環になりますと、大体2分の1がロスになってくると言われています。それから、ゆめタウンを中心にした系統を設定していますが、中町を起点にした循環線と、大柿から小用に行く路線とでは、どちらが今、利用客が多いかという、大柿から小用に行く路線が多いわけで、今そこが70パーセントぐらいの利用客になっています。中町を起点にした循環線にすると、大柿からゆめタウンだけになってしまうんですね。そうすると、今よりぐっと便利になる部分があるんですけれども、その部分のコストを考えるとどうかという、今の利用者が分散するということになり、益々利用効率が悪くなるのではないかとこのことを心配しています。船の接続という面では、やっぱり短絡線で結んだほうが、きちっとした接続はできると。それから、病院巡りの循環線というのは、実は福祉路線か公共交通かというところの考え方の整理が必要になると思います。公共交通を便利に残していくという中では、先程申し上げておりましたが、やっぱり乗り継ぎで行けるようにすると。その場合、</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

<p>受託事業者 (つづき)</p>	<p>乗り継ぎをうまくできるようにすると。乗継をすると運賃が高くなりますので、乗り継ぎ割引を入れるとか、上限運賃を下げるとか、負担を軽減するというところをかみ合わせた系統の設定がいいんじゃないかということで、ご提案している部分もあります。</p>
<p>議 長</p>	<p>はい、ありがとうございました。はい、次どうぞ。</p>
<p>委 員</p>	<p>今、説明があったように、その通りだと思うんです。ですから、公共ということに、あまりこだわって欲しくないということを言いたいです。福祉なら福祉といった形で管内を巡回。私、バスで通勤しておるんですが、社協は鹿川にありますので、環境改善センター前からバスで乗って帰るんです。これは大君経由小用行きなんです。中町棧橋から来たバスの乗客は、一人かゼロなんです。船から降りた人を乗せているのではなくて、中町方面から病院に行く人を乗せている。澤病院の前でたくさん降りるんです。大君経由ですから、大君交差点辺りの乗客が一番多くて、5、6人の方が大体乗られます。それから、ちょいちょいと乗客を拾って、澤病院でほとんどの人が降ります。澤病院の後は、灘尾記念館の前の所で2、3人乗り、大君の棧橋で乗り、それからゆめタウンで降りる。ゆめタウンでお客さんが乗って、今度は小用方面へ行く人がちょいちょい降ります。青木病院前にある山田のバス停でも少し降りますが、ほとんどの人は小用棧橋まで行きません。ほとんどが私と同じ江田島電話局前か、その近くで降りています。ということは、今言われた公共ということではなくて、ほとんどが福祉・病院目的です。これは9時40分の中町棧橋発大君経由小用行きの状況です。中町棧橋からゆめタウンまでは、回数券を使わなければ230円。ゆめタウンから私のところまでが220円で、合わせて450円かかるんです。私は通勤ということで回数券を買わせてもらっていますが、そうしたら運賃も違うわけです。今説明がありましたように、「公共交通だから、どうしてもこうしなくちゃいけない」ということで決定しますと、どうしても住民に負担がかかります。「公共だったら、福祉のこともやってくれるのが当然だ」と思っている住民の方が大部分です。今のように、専門的に分けて考える人はいません。先程の回答もよく分かるのですが、基本的には公共交通だからこそ考えていただけないかなというのが本意でございます。どうも失礼しました。</p>
<p>議 長</p>	<p>ありがとうございました。このパブリックコメントにおいて、「むしろ公共よりも福祉の面を強化したほうが良いのではないか」というようなご意見が非常に多く伺われましたので、今、委員さんが言われたように、「福祉の面をもう少し広めに考えた方がいいのではないか」というご指摘であろうかと思っております。この計画の中で今後、検討する機会もあろうかと思っておりますので、ぜひ福祉面での検討をさらに深めていただき、住民の満足度を高めていただければ、ありがたいと思っておりますが、事務局いかがでございましょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。交通を考える時に、セーフティーネットの交通と、プラスアルファの部分、さらに便利とか使いやすいとか、交通には大きく2パターンがあると思うんです。セーフティーネットとしての交通というのは、絶対に守らなければならないので、そうした基本線がどこにあるのかということをもとに固める。その上で、</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

事務局 (つづき)	さらに便利にする方法を考えていくのが、順番ではないかと思っています。具体的な路線とかは、実際、これから検討していくのですが、まずは、「固めていくべき部分はどこなのか」、次に「プラスアルファで出来ることは何なのか」ということを考えながら、具体的に運行を考えていきたいと思っています。
議長	はい。ありがとうございます。それでは、次の御意見を伺います。
委員	今の福祉か公共かということは、非常に大事な議論だと思うので、どこかできちんと考えた方がいいと思います。計画(案)26頁の結果ですが、これは市民に聞いたものですよ。ユーザーではないですよ。何が言いたいかという、先程の委員のお話を聞いていると、多くの利用者が高齢者に偏っていることを考えると、市民の立場というのはもちろんあるんですが、「利用者の立場は、どっちなんだろう」ということを疑問に思いました。実を言うと、私の学校のある大崎上島町で調査をすると、バスの利用者の大体60%の人は、通院に使われているんです。ほとんどが高齢者です。ということは、その利用者の利便性を考えるということであれば、通院をメインに考えるというのは間違っただけではないと思っています。もちろん、先程の公共という立場から言えば、利用者を増やしたいということを考えれば、ここにあるような船との接続というのは大事なことも分かりません。そこはそこで、ちょっと議論が必要だと思うんです。利用者の立場から、今利用している人達が何を考えているのかという視点が欠けていないのかという辺りが、少し不安に感じました。もちろん、路線によって状況は違うとは思いますが、大崎上島町の例で言うと、島民の方に、「バスのどこが不便ですか」というふうに聞くと、必ず「接続が悪い」というふうに言います。ところが、利用者から「接続が悪い」という意見は、割と多くないんです。なぜかと言うと、島の中で通院や買い物をされるお年寄りが多いんです。江田島市の利用者のことは分かりませんが、その辺の視点をもう少し取り入れて、ちょっと考えてみたらどうかと思います。
議長	はい。どうもありがとうございます。この利用者と市民の分け方というのは、福祉と公共の分け方にピッタリ合ってるんじゃないかと思いますね。
委員	ちょっと長くなって申し訳ないんですけど。今先生が言われたその通りです。社協が移動販売を始めて1年間経ちました。秋月という所があって、ここは「秋月～呉間の船を出してくれ」という嘆願書まで出して、船を走らせている地域です。店が1軒もなくなって、市と商工会から補助金をいただいて、社協が業者さんをお願いして、日用食品を週1回から2回販売を行っています。初めは利用者が少なかったんですが、今、免許を返す人が増えています。「買い物に行くために免許を持って自動車を運転していた。1週間に1回、日用品販売が来るようになったし、80歳になってまで運転をしたくない」と言って、免許を返す人が増えたんです。つまり、島内で免許を持つ人は、買い物で必要だったんですね。バスがあれば、バスにどんどん乗るかどうかは分かりませんが、鷺部という地区でも、免許を返し始めていると、先日、自治会長さんが言っておられました。「公共だから」と言われたが、現実には、そういう時代はもう過ぎている。この場とは関係ありませんが、今度、福祉サービスがガラッと変わるんです。



平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>行政の方が一番ご存知ですが、デイサービスが減るんじゃないかということで、デイサービスに行けなくなった人が出てくると思います。今は、社協がデイサービスの利用者を迎えに行っておりますが、このサービスがなくなった場合には、他の方法が必要になってきます。1年間の猶予期間はあるんですが、その対応を今考えています。大体、今、要支援1、2の方の3割が利用しているんです。そうしたら必ず、医療機関に通うお年寄りが増えていくんですね。そういうことがありますので、付け加えておきます。</p>
<p>議長</p>	<p>どうもありがとうございました。非常に大切な点だと思いますので、この協議会におきましても始終議論をしていただきまして、本当の公共交通と言いましょいか、生活交通を活用される利用者の立場に立った路線であり、ダイヤ運行というものが大切ではないかと思っておりますので、ぜひまた議論を重ねていきたいと思っております。ありがとうございます。他に何かご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>私の方からは、これからのスケジュールを含めての話になるんですが、先程の話の中で、「再編実施計画の策定も視野に入れている」という話がありました。もし、法定の再編実施計画という意味であれば、形成計画の中に再編実施計画とか再編事業を記載していただく必要があります。今の計画案では、特に路線の再編等の具体的なものは記載されていませんので、この計画を基にした再編実施計画は作れないということになります。もし、法定の再編実施計画を策定されるということであれば、この計画を変更していただいて、先程あった「病院を巡るようなバス路線を設定する」とか、「循環線を設定する」とか、具体的な再編イメージを作っていただいて、それを実行する計画としていく必要があります。先程の福祉を考えた路線を設定するかどうか、これからのお話になっていくと思うんですが、本当に再編実施計画を策定されるということであれば、そこまで踏み込んだ計画を作っていく必要があるということをご認識いただければと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局、何かご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>具体的な路線をどうするかは、これから詰めていくことになります。再編実施計画を作るに当たって、何が必要になってくるのかは、事務的に調整させていただこうと思っておりますので、また相談させていただきます。</p>
<p>議長</p>	<p>たぶん、実施に至る過程におきましては、今、事務局の方でお答えになっていただいたように、もう少し詰めていく必要があるだろうと思っておりますので、今後またご指示をお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>前回も申し上げたんですが、この協議会を始めたきっかけは、中町・高田からの高速船と三高からのフェリーを再々編をするためだったんです。取りあえず民営化して、二つの航路が動き出しているということで、この再々編を計画でどのように位置付けるのかということです。向こう5年間で、再々編という言葉を入れてなかったために話が動かないとなったら、もうこれは出遅れになるんですね。この5年間の間には、色々な要素がある中で、毎年利用されるお客様が減っていくという想定もあり、しかも、その想定よりも大きい減り幅で、特にフェリーを利用する車が減ってきているということで、5年間、再々編をせずに、維持できるかどうかは非常に難しいと思うんです。「そういう要素もあるよ」というこ</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>とを、今から決めてかかるんじゃないで、可能性を残しておかないと、今後5年間、潰れるのを待つということになったのでは困ると思うんですね。そういう感じがします。</p>
<p>議長</p>	<p>分かりました。そういうところもよく踏まえて、議論をしていく必要があるということでございます。では次の委員さん、よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>計画(案)によると、「平成32年には今から20%位人口が減って、高齢化率も43%になる」と書いてあります。今の再編も含めてなんですが、「その視点がどこにあるのか」ということを思っていて、明確にすることはとても大事だと思います。今すぐ書けるか、難しいのかは分かりませんが、平成32年という、たかだか5年後ですよ。たぶん10年後になるともっと減って、高齢化率もたぶん高くなるということを考えると、その視点を入れておかないと非常に怖いというか、いけないと思います。先程、バスの話があった時にずっと考えていたんですが、高齢化率43%で本当に大勢の人が、島の外へ出ているのかなあと思っていて、先程の26頁を見た時も、そういうふうに思いました。現状の状況で、例えば「こういう不満があるよ」、「その不満を解消するよ」ということは非常に大事なんです、それだけに終始してしまうのではなくて、例えば「高齢化が進んだ時に、どういう不満が多くなりそう」という視点みたいなものは、とても必要なと思います。例えば先程の通院の話もそうなんです、実を言うと、江田島はよく分かりませんが、多くの山間部、島もそうなんです、お医者さんそのものが高齢化していて、廃院になるところが結構多いんです。そういったところがどうなのかなというふうに思います。そういった視点で、例えば公共施設や色々な施設でもそうなんですけども、5年後、10年後を完全に予測するのは難しいかも分かりませんが、少なくとも人口減と高齢化率の増加というのは、ここ10年、20年で復活することはあり得ないと思うので、そのことを頭に置いた公共交通のあり方というのは、やっぱり必要だと思うんです。そのための施策というか、考え方というか、フィロソフィーがどこにあるのかなというふうな感想を、ちょっと思いました。</p>
<p>議長</p>	<p>どうもありがとうございました。委員が言われたのは、「十分想定内の事柄であるので、この計画の中に盛り込む必要があるのではないか」ということを議論するということですね。盛り込むかどうかは別としまして、議論をする可能性があるということでお話になったわけでありまして、「今後将来にわたって起こりうる可能性が考えられるものであるならば、それはちゃんと盛り込んでいく必要がある」ということでございます。</p> <p>また、事務局のほうでご検討いただきまして、再編計画の中に反映してもらえればありがたいと思っておりますが、取りあえず現時点では、事務局はどういうふうにお考えですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃる通りです。今後、人口減少の減り幅を抑制できるよう頑張っていくことにはしているんですが、人口が増えていくという状況は、日本全体だけでは考えづらい状況があるので、当然そういったことも考えるべきだと思っております。ただ、今回の5年計画は、「人口減少等が見込まれる中であっても、公共交通</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

<p>事務局 (つづき)</p>	<p>の利便性を落とさないようにするためには、どうすべきかを考えていくべき」ということがあって、そのためには、「今、掘り起こせていない層の利用者を掘り起こそう」ということで、「公共交通が不便な状態にならないように頑張っていきたい」という発想であります。今回、施策としては、目標という形で、五つほど項目を掲げているんですが、利便性、運賃負担感の軽減とか、ICカードとか、そういった利便性を向上させることによって、新たに「乗っていなかったけど、乗り継ぎが良くなったから乗ってみようか」とか、そういったことを掘り起こすというのも思想としてはありますし、また、目標4のほうに、観光という概念も載っています。観光客にとっても、今はたぶん、船に乗って降りた後に、バスで移動して観光するのは、なかなか難しいと思うんです。接続を良くしたとしたら、バスに乗ってぐるっと島を回って、帰っていただけという、新たな事業が掘り起こせないかなというようなことも考えています。そうした事業の掘り起こしと絡めて、「この人口減少の中で、江田島市の公共交通を守っていきたい」という思想を、この計画の中に入れていっているところです。</p>
<p>議長</p>	<p>したがって、今後起こりうるような事柄、人口が減るという一方で、新しい観光開発、観光資源を得ることによって、島外からも人が入って来られるというような、想定外の面も評価できるものがあるのではなかろうかというようなことでございます。いずれにしましても、将来的にはマイナス面もあればプラス面もあるということで、それを今後どう検討し、組み入れていくかというところに課題が出てこようかと思えます。他にどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>この前の協議会で、議長から「路線バスの利用者の立場としてどう思われますか」というような指名をされたわけですが、私はその時まで、バスに乗ったことがなかったんです。自分が車を持っているので、一度も乗ったことがないということで、勉強不足といえば勉強不足ですが、住民の代表としてこれは悪かったと思い、バスに乗って見たんですよ。中町発12時52分に乗って、秋月まで行ったんですが、片道、私を含めて4名でした。帰りもそれ位だったんですが、私は、「時間がはっきり分かっていたら便利がええな」という感想を持ったんですね。それなら今度、「早いこと車と免許を返してから、こういうようなバス路線を利用するようにしたらいいな」という思いがありました。</p> <p>このバスについて、これは一つ、私からのお願いですが、この3月いっぱい、高田地区にある堀澤クリニックが先生の都合により閉鎖されるんですよ。今まで病院へ行っていた高齢者の方が、「どこに行けばいいんだ」、「隣の中町地区に行くにせよバスがない」と。三高棧橋から高田・中町棧橋行きのバス便は1便だけです。この私も、時間をはっきり知らないんですが、皆さんが言うには、「行くのに困っている」と。「中町まで行けばあっちこっち行けて便利になるんだが、高田から中町まではなかなか行かれん」というようなことで、この4月からのことで皆さん困っておるんですよ。そこら辺りを何か考えてもらえないでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局の方、何か言うことがございますか。</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

事務局	<p>高田方面から中町棧橋っていうことでいえば、現状、二つの行き方があると思います。一つは高速船ですね。高田棧橋から中町棧橋まで船で行くというパターンもありますし、もう一つはおれんじ号があります。おれんじ号の北部線が、湾の内回りをグルッと走っていて、高田を経由して中町まで行きます。シーサイド温泉まで行きます。そういったルートもあります。もし、ご存知ないということであれば、我々の周知も足りないのかなと思いますので、「こういったものもありますよ」というのを、PRしていきたいと思います。また、「それでは足りない」ということであれば、おれんじ号の走らせ方について、来年度以降に考えていきたいと思っていますので、その時にご意見をいただければと思います。</p>
議長	<p>おれんじ号やバスの利用が多いのは、高齢の女性の方だと思います。女性会長さん、いかがでございましょうか。そういう高齢の女性の方の声を、お耳にしておられることもあるかと思いますが、バスの運行に関して、何かお気付きやご意見がございましたら伺いたいと思います。</p>
委員	<p>おれんじ号のことを、「よく知らない」、「使ったことがない」という方がおられます。利用された方は、「あれは予約をしておかんにゃあいけんのんで、なかなか大変なんよ」とか言ったりして、それを利用する方向に気持ちがいかないという雰囲気です。先程も言われましたように、堀澤クリニックさんに通院していた人は、「どうしたらいいかね、どうしたらいいかね」と、今そういう話は出ているんですけれども、そこから先の具体的な方法は思い浮かばないというのが現状です。ある人からは、「高田棧橋の方から出発するバスがあってくれたらいいのに」、「もっとあればいいのに」というような声があります。</p>
議長	<p>先程、事務局の方からもお話しが出たんですけれども、住民への周知が十分ではないかなというようなご指摘もあったわけでございますけれども、その辺りはいかがでございましょうか。やっぱり、住民への情報提供の仕方が悪かったのか、何か工夫をすれば良いのか。何かありましたら、お伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>おれんじ号に対して1回1回、予約を取ることに抵抗があるようなので、一定時間、毎日でなくてもいいんです。月・水・金なら月・水・金のいつ、どこを通過して、どこへ行ったらおれんじ号に乗れるよというような、バスの感覚で、時刻表を貼ってやっていくと、みんなで誘い合って行こうという形になるかと思います。</p>
議長	<p>分かりました。事務局の方、いかがでございましょうか。</p>
事務局	<p>はい。おれんじ号を走らせる上で、そもそも予約型乗合タクシーという制度の枠組の中でやっています。実際のところ、予約を取って走るというパターンでないと、おれんじ号を走らせられないという法律の縛りがあります。おれんじ号が予約なしであればベストなんですけど、それをやると怒られてしまいますので、申し訳ないですが、ご理解願えればと思っております。</p>
委員	<p>どこから怒られるんですか。何で怒るんですか。</p>
議長	<p>ということは、予約を取りまとめられるような地域の団体と言いましょか、自治会さんとか、そういうところでやられるとよろしいかと思っておりますけど。</p>

委員	<p>今、おれんじ号のことで、委員さんからの質問・指摘で、「予約なしで」ということでした。これ、乗合の兼ね合いがありますし、今、私どもが運行しているのは沖美町の方へ行くんですけど、自分の家の近くで、皆さん乗車されるんですよ。利用者の方からは色々な声を聞いているんですが、「予約なしで走ってくれ」と言われても、乗れる人数が限られているんですよ。定員オーバーの可能性があって、その対応にも困ることになります。予約型でやってきて、今、5年、6年目に入っているんですけど、私どもが運行しているのは、三高、高田、中町とは別なんですけど、もうお客さまがそのことを理解して、1時間前までに予約してくれます。朝便は、本当だったら前日までの予約になるんですが、当日朝の電話であっても、私どもの方は対応しているんです。そうしないと、お客様の人数が把握できないもので、なかなか無理が来るんですよ。皆さんも、だんだん利用するうちに、「今度はうちの家まで来てくれ」とか、「違う所まで来てくれ」とか言うんですよ。でも運行時間が決まっていますから、お客様の所まで行くと、時間がどんどん後にずれていって、運行に差し支えるんですよ。</p> <p>今、高田の方を走っているのは、北部線ですね。以前は、ワンボックスで走っていたんですけど、2年前にタクシーに変えたんですね。というのは、「利用者が少ないので、ワンボックスじゃなくて、今度はタクシーを走らせましょう」とこの協議会でなったんです。今、委員さんが言われたように、「病院がなくなったら」というのは、すごく分かるんですよ。私も地域の間人として考えてみると。でも、堀澤クリニックへ何人の患者さんが行っていたのか。皆さん、そういった声は出します。「どこへ行こうか」とか。でもそれはその場だけのことで、本当に困っているんだったら、自分で何とかします。「おれんじ号が走っているから、それを利用したいんだけど」ということであれば、利用の仕方もあるから、ちょっと企画振興課の方へ聞いてもらったらいいんです。予約の仕方でも少し難しい面がありますから。たぶん、高田地区の方ですと、国道、旧道があって、皆さん「自分のところまで来てくれないかな」という思いがありますから。企画振興課の方に相談してから、「どういう対応をしたらいいか」ということを聞いたらいいと思います。これは予約制ですから。先程の「誰かに怒られるから」ということではなくて、もうこれは法律で決まっているんです。僕らも運輸局の方からヒアリングを受けて怒られるんです。指導も受けるし、それをやっているんです。「利用者の方が便利になればいいなあ」というのは、本当に理解できます。理解できるんですけど、もう少し考えて利用の仕方を考えた方がいいと思います。事務局、企画振興課の方と相談したらいいんじゃないかと思います。ここでは答えが出ないと思うんですね。大変申し訳ないんですが。</p>
議長	<p>分かりました。どうもありがとうございました。いずれにしても、利用しやすい、皆さんが使い勝手がいいような、そういうシステムというのが非常によろしいかと思しますので、今後の課題として、またそういう方向でお願いしたいと思います。他に何かご意見ございませんでしょうか。</p> <p>それでは、協議事項、かなり時間がかかりましたので、この辺で取りまとめさせていただきます。一応、今ご指摘いただきました点を、事務局の方で検討して</p>

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

議 長 (つづき)	いただきまして、私も含めまして、この江田島市地域公共交通網形成計画を取りまとめさせていただきたいと思っておりますが、それによろしいでしょうか。
各委員	はい。
議 長	それでは、お手元にあります江田島市地域公共交通網形成計画の案につきましては、皆さん方のご指摘の点などを微調整いたしまして、事務局と相談しまして成案にまとめ、皆さん方にお送りしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。事務局の方は、それによろしゅうございますか。
事務局長	はい。
(2) 報告事項	
① 江田島市地域公共交通講演会の開催について	
議 長	はい。それでは、報告事項へ参りたいと思います。江田島市地域公共交通講演会の開催につきまして、事務局からご説明をよろしくお願ひします。
事務局	<p>報告事項の前に、資料の訂正を一点させていただきます。先程の資料2の16頁です。「路線バスの系統別輸送人員等」の表の中で、「輸送人員（万人）」となっておりますが、「輸送人員（人）」の誤りです。すみませんでした。</p> <p>それでは報告事項をご覧ください。江田島市地域公共交通講演会の開催についてのお知らせでございます。明後日3月20日です。日曜日の春分の日ではございますが、能美町鹿川の農村環境改善センターで、一般財団法人 地域公共交通総合研究所代表理事の小嶋光信様を講師にお招きし、「地域の『まとまり』と『つながり』を守る公共交通 みんなで乗って守ろう船とバス」をテーマに、講演会を開催いたします。講師の小嶋様ですが、現在、岡山県の両備グループの代表取締役CEOを務めておられます。三重県の津エアポートラインや和歌山電鉄など、地域公共交通の再生に取り組みられ、平成25年に施行された交通政策基本法の成立に尽力をされておられます。また、和歌山電鉄の再建では、三毛猫たまを駅長に任命するなど、地域と連携した活動で話題を集められた方でもございます。小嶋講師が代表理事を務められております一般財団法人の地域公共交通総合研究所でございますが、先程ご協議いただいた交通網形成計画の策定をコンサルタントしていただいております。その関係で今回の講演会をお願いしたところ、ご多用にもかかわらず、快くお引き受けいただきました。そして、この講演会の開催の運びとなっております。来年度から、この計画による取組を進めるに当たり、これまで小嶋氏が全国で関わってこられました取組事例とともに、公共交通にみんなで乗って、どう守っていくべきか、本市にとっても大変に参考になる講演内容になるものと期待をしております。</p> <p>それで、本日御出席の皆様には、各団体やご近所のお友達など、お声掛けをいただきまして、一人でも多くの皆様に講演会にご参加いただきますよう、お願ひ申し上げます。報告は以上です。</p>
議 長	どうもありがとうございました。

平成27年度 第5回江田島市公共交通協議会（平成28年3月18日）

5 その他	
議 長	それでは「4 その他」へ参ります。事務局の方から何かございませんでしょうか。
事務局	ありません。
6 閉 会	
議 長	それでは事務局の方からはないようでございますので、これにて第5回江田島市公共交通協議会を終わらせていただきます。 今日は長時間、いいものをいただきましてありがとうございました。